

## A. コースワークの充実・強化

## ④社会人、留学生、他分野・他大学からの多様な大学院生に対応した基礎学力補完教育の実施やカリキュラムの提供

## ●静岡大学 人文社会科学研究所臨床人間科学専攻

## 「対人援助職の倫理的・法的対応力の育成」の事例 &lt;人社系&gt;

## 具体的に何を実施したのか

- ・実証的研究能力を基盤にした総合的な実践的能力の向上のため、質的・量的調査科目（質的分析演習、質的調査演習、量的調査演習、計量分析演習）を専攻全体の授業科目に位置づけ、調査能力の向上をめざした。

## 実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと

- ・多文化共生社会においては、異文化やジェンダーやマイノリティーに対してセンシティブな倫理的対応が求められる。こうしたバランス感覚を養うために、質的調査も重視した。
- ・教育成果を、現場の専門家を招聘した公開授業報告会で検証した。

## どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか

- ・入学以前にまったく調査関係の授業を受けていない院生も含め、一定程度の調査リテラシーを身につけることができるようになった。
- ・ほぼすべての学生が、自らの手で、何らかの質的、量的な調査を行い、その分析をもとに修士論文を執筆するようになった。このように、社会調査の技法の習得をベースに、実証的な問題解決能力を育成するという教育目標はある程度達成されていると評価できる。

## ●青山学院大学 国際政治経済学研究科

## 「グローバル・エキスパート養成プログラム」の事例 &lt;人社系&gt;

## 具体的に何を実施したのか

プロジェクトマネジメントⅠ、Ⅱ、Ⅲは、アメリカのアンドリュース大学大学院との共同開催科目で、それぞれの大学所属の学生に対して各大学が単位の認定を行った。本学のプロジェクト教員がコーディネーターになり、アンドリュース大学の教員との合同授業形式とした。招いた教員は国際NGOにも所属し、途上国で実践活動を行っている活動家兼研究者であり、短期集中で行った。受講生も本院生に加え国内外のNGO活動家や医師、大学院生、研究者等が当科目を履修できる制度を作り、多国籍の集団で実戦さながらのケーススタディを実施した。

**実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと**

世界から受講生が来ると同時に、国内では社会人が短期集中でやらざるを得ないので、土日は午前午後の開講、平日は18:30からの開始であった。しかも、3科目の設定で3週間の連続であったので、学生の体力面等の健康管理には注意を払った。資料が多かったが、一年目は資料代等は取らなかったが、次年度は有料制にして収支面に配慮した。

**どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか**

多国籍の学生たちからなるディスカッション方式であったので、学生たちは貴重な経験をすることができた。特に一つのテーマを複数の学生間で協業することの難しさと、面白さを感じ取っていた。かなりハードではあったが、学生からは好評であった。なお実践的な英語力の必要性に気付いた学生が多かったので、フォローアップとして語学力アップのための実践的講座を開き訓練した。やはり語学力向上のための支援は欠かせない。

**●産業医科大学 医学研究科****「国際産業医学研究者育成教育イノベーション」の事例 <医療系>****具体的に何を実施したのか**

国際的に活躍する産業医学研究者の養成が目的であることから特にコースワークとして、英語での授業の導入と海外連携校からの教授陣の招聘と講義を実施した。訪問して若い研究者との意見交換会と研究の紹介を行った。

**実施に当たり特に考慮・工夫したことや、注意を払ったこと**

医学英語検定の受験を奨励した点は効果的だった。

**どのような結果が得られたのか、どのような良い影響があったのか**

共通言語で連携校の若い研究者（院生を含む）との情報交換がモチベーションとなった。